



The Service Club for the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU

Affiliated with the International of Y's Men's Clubs Chartered 1950

c/o YAMANASHI YMCA 4-11-5, Chuo Kofu 400-0032 Japan
Tel 055-235-8543

国際会長主題：私たちは変えられる
アジア太平洋会長主題：アクション
東日本区理事主題：為せば、成る
あずさ部長主題：未来はそれに備える人のものである
甲府クラブ会長主題：肩を組んで、歩み行くワイズ

Moon Sang Bong (韓国)
田中 博之 (東京多摩みなみ)
宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)
廣瀬 健 (甲府21)
ピーター・マウントフォード

甲府ワイズメンズクラブ
2018 11月会報
●今月の強調目標
(ワイズ理解・ファミリーファスト)

■今月のことば■

The comfort of having a friend may be taken away, but not that of having had one.

Seneca 5BCE - 65 AD P・マウントフォード会員選

今月の例会案内

日時：2018年11月13日(火) 18:45~20:45
場所：ホテル談露館
担当：A委員会 YMCAサービス
司会：廣瀬 静男 会員

プログラム

- ・開会点鐘 P・マウントフォード 会長
- ・ワイズソング・ワイズの信条 一同
- ・会長挨拶/ゲスト紹介 P・マウントフォード 会長
- ・今月のことば/食前の感謝
- ・「平原貞美さんを偲ぶ」
- ・ワイズディナー
- ・会員卓話「THE インフルエンザ」
講師 中島達人 会員
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー
- ・諸報告
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 P・マウントフォード 会長

10月のデータ

会員数	36名	メネット	4名
内広義会員	1名	(大澤・標・中島・山崎)	
例会出席会員	18名	コメント	1名(中島)
出席者合計	24名	キャンディデイト	1名
出席率	50%	(宮本秀憲)	
メイキャップ	10名	(荒川・小倉・渋江・鈴木)	
仙洞田・田草川・中澤(文)・中島・根津・渡辺)			
修正出席率	78%		

//// //// 巻頭メッセージ //// ////

会長 P・マウントフォード

今月の言葉「友人がいるの慰めは取り除かれるかも知れないが、友人がいたの慰めは取り除かれない」はお別れの言葉です。

皆さんはすでにご存知と思いますが、10月16日に平原ワイズがお亡くなりになりました。この言葉は多くのワイズメンに響くと思います。平原さんは1953年に甲府ワイズへ入会し、65年の会員歴を誇りました。長い間にワイズダムに活躍して、全国に知られていました。私は会長に就任したときに平原さんが書いた励ましの言葉のハガキをいただきました。

闘病生活でも、89歳でもワイズへの情熱は衰えていませんでした。平原さん、ご活躍とご支援ありがとうございました。今月の例会で平原さんのお別れ会を行います。そして、このブリテンは2ページ増刊して、平原さんの思い出とワイズの業績を褒めています。

速報：ご苦労さまです！

11/3日(土)山梨YMCAバザーは甲府ワイズのメン・メネットの力を一集結して、無事に行われました。

集めた金額はYMCA活動に大きな貢献となります。皆さん、ご協力ありがとうございました。



10月例会報告

神山 玄太

10月例会は「秋の野外例会」と銘打って、甲府駅北口周辺で開催されました。

ワイナリーのサドヤに集合し、大正6年から続くワインづくりについて見学しました。まずはワインの原料となるぶどうについて説明を受けました。サドヤの自社畑は欧米でみられるような垣根栽培を主としており、また栽培しているぶどうは白ワインならセミヨン、赤ワインならカベルネ・ソーヴィニオンなど欧州種が中心とのことですが、最近では山梨ワインのブームもあり、甲州、マスカット・ベリーAなども栽培しているとのことでした。

ぶどうの説明の後は地下ワインセラーの説明です。秋めいてきているとはいえ、野外例会当日は暖かい日でしたが、地下セラーの中はやっぱりひんやりとしています。まずはワインの作りの工程の説明です。ぶどうからワインになるまで、また白ワインと赤ワインの作り方の違いまで教わりました。セラーの中を進んでいくと、過去から現在に至るまでのサドヤの歴史やワイン造りの道具などが展示されています。また展示されている部屋はかつてはワインを貯蔵していたコンクリートタンク室で、一部屋でビンで70,000本分ものワインを貯蔵していたそうです。いまでも数部屋は貯蔵室として使っています。

ワインセラーでの説明の最後は、お待たかねのワインの試飲です。県産のカベルネ・ソーヴィニオンを使った「櫻」、甲州とシャルドネの「オルロージュ白」、そしてサドヤ農場産のカベルネ・ソーヴィニオンとマスカット・ベリーAで作った「オルロージュ赤」を試飲しました。私は車だったので残念ながらジュースの試飲でしたが、コンコードを使った濃厚なジュースを堪能しました。

サドヤに残る一番古いワインは1955年の白ワインだそうです。ただこれは歴史的価値としては高いそうですが、飲める状態ではないとのこと。販売している一番古いワインは、1962年の赤ワインで、いまでも十分に楽しめる状態とのことでした。いつかは飲んでみたいものです。

サドヤを見学した後は、Saiya(サイヤ)に場所を移してみんなでランチを楽しみました。ピーター会長からご挨拶をいただいたあと、YMCAバザーについてなどの案内を受けました。

今回の10月例会は天候にも恵まれ、晴天の下、参加者みんなで楽しく開催することができました。



10月役員会報告

▼日時：2018年10月23日(火) 午後6時30分～8時00分

▼場所：山梨YMCA

▼出席者：マウントフォード・田草川・標・仙洞田・丹後・廣瀬・根津・渡辺

【報告事項】

①10月20日(土) あずさ部大会

出席者：マウントフォード・秋山・大澤・金丸・標・仙洞田・田草川・廣瀬・露木・小倉メネット

・亡くなった平原さんに関する資料が配布され、甲府21クラブの配慮に感動した。

・功刀氏の講演時間が短縮されたのは残念であった。

②10月5日(金) 山梨YMCAバザー実行委員会(第2回) 出席者：マウントフォード・荒川・大澤・標・仙洞田・田草川・廣瀬・渡辺

第1回実行委員会より甲府クラブから大勢出席して良かった。

③その他の報告

・10月22日開催の山梨YMCA常議員会の報告(マウントフォード会長)

・鶴田会員義父、平原会員の葬儀に際し、香典及び生花代を支出(丹後会計)

・渋谷会員の近況(渡辺)

【協議事項】

①西日本豪雨災害募金の件
30,000円とする。

②YMCAバザーの件

A委員会廣瀬委員長が準備、当日の出欠を確認中。食券の配布を徹底する。次回実行委員会は10月26日(金)

③11月例会(11月13日)の件 担当A委員会 廣瀬委員長からプログラム案の説明があった。中島会員によるインフルエンザ予防をテーマにした卓話の他、先日逝去された平原さんを偲ぶ時間を設ける。

④12月クリスマス例会(12月11日)の件 担当:C委員会

礼拝説教は山梨英和大学宗教主任・高橋一氏に依頼する。英和大学の留学生の確認。メインプログラムは甲府市社会福祉協議会派遣講師・依田氏による「皆で歌おう・懐メロ」と、オークションとする。詳細は次月役員会で決定。

⑤その他

・松本クラブ30周年(12月15日)の案内をバザーが済んだ後メール配信する。11月例会で回覧募集する。

・次期会長選考委員会をバザー後開始したい(丹後)

(書記：仙洞田安宏)



追悼 平原貞美さん

去る10月16日、甲府クラブの大先輩である、平原貞美会員が天に召されました。89歳でした。平原さんは、1953年に甲府クラブに入会、1964年クラブ会長、1994年日本区東部部長でエルマー・クロウ賞受賞。特にEMCへの情熱は熱く、松本クラブ(1988年設立)の設立準備副委員長、富士五湖クラブ(2003年設立)、長野クラブ(2010年設立)の設立準備委員長を担われ、ワイズダムの発展に多大な貢献をされました。2011-12年度に東日本区奈良傳賞を受賞されています。

YMCA関連では、1958年から山梨YMCA理事(1983年からは常議員)、2015年に山梨YMCAで初めての名誉会員に推挙されました。

平原さんとの出会い (思い出)

大澤 英二 (甲府クラブ・山梨YMCA 理事長)

平原貞美さんの甲府クラブ入会は1953(昭和28)年2月21日。甲府ワイズが発足して3年、24歳の時。今から65年前。緑町(現・若松町)の老舗の肥料店・平原伝八商店の御曹司。ワイズ入会紹介者は甲府ワイズ初代会長の歯科医市川規一博士。甲府ワイズを産み出した山梨YMCAの初代理事長。私はそのYMCAの新任職員。結婚式の証人(仲人)も平原さんと同じ市川先生ということもあり、ずっと家族のような交わりをさせていただきました。平原さんの入会式は5名同時に行われました。他の4名とは、近藤兵庫(元甲府一高校長-当時-以下同じ)、石原宗美(甲斐物産商会长-祥平会員のお父上、基平会員の祖父)、岡部秀一(県総務部長)、大塚篤郎(柳生堂書店社長)の各氏でした。

平原さんはYMCAの様々な活動にボランティアリーダーとして足繁く参加して子供たちから親しまれました。いつも愛用のカメラを携え、つぼみぐる一ふのピクニックや少年少女海浜キャンプに三浦半島にある東京Y観音崎キャンプにまで引率リーダーをされていたのを思い出します。平原さんのつながりの紹介で甲府市内の幼稚園、保育園の子どもたちに当時全国的に大人気の人形劇団“劇団ブーク”を招いて県民会館大ホールを満員にして喜ばれた思い出もあります。ハイYワークキャンプ、少年自転車教室、新聞配達少年のクリスマス、新クラブ設立、チャリティラン、バザー等々、ワイズメンとしての諸活動は枚挙にいとまがありません。

そんな元気な平原さんが、最近健康を損なわれ長いこと欠席が続いていましたが、健康な時も病む時もワイズに対する情熱は少しも衰えませんでした。現役の我々を常に覚え、励ましとアドバイスをはがきや手紙に託されました。10月13日付のお葉書が最後のものになるとは。長くなりますが記させて頂き、思い出の言葉に代えさせていただきます。

「前略 小生只今すっかり涼しさを増して来た庭の草花や樹々をボンヤリと眺め、何故そんなことをしているのか不思議な気がしています。明日も未来のことも考えられぬ程に心身の全てが衰えてきているのかと思うとどうすればよいのかわからなくなっています。いよいよボケの範疇に一步踏み入れたのかなと情けない気持ちです。唯一の救

いと言えるのは貴兄をはじめごく親しい方々とあれこれ話し合うのはとても今日を生きる励みやいろ色のものを与えられる楽しみを感じずからだと思えます。これが病持ちの年寄りの心境なのでしょうか。あきらめの境地の中で今日を只有難く感謝あるのみです。ご夫妻の健康長寿を祈ります。家内は東京オリンピックを一緒に楽しみたいと言っていますが、どうなることやら……」

10月16日御永眠。ご冥福を祈ります。

平原さんを偲んで 岡本 尚男

(京都キャピタルクラブ・第40代日本区理事)

私は1971年に京都パレスクラブのチャーターメンバーとしてワイズメンズクラブでの活動の第一歩を踏み出しました。その年の会員名簿には甲府クラブ34名の会員の中に平原さんのお名前が掲載されています。私より18年前に甲府クラブに入会されておられ、甲府クラブの重鎮として歩んでおられた方と私とのご縁は、細い一本の糸で紡がれていたように思います。

それはワイズメンズクラブに誘ってくれた友人から始まり、1983年にキャピタルクラブ設立に伴い移籍して、1994年度の日本区理事に就任したところから太いご縁となりました。即ち、平原さんが65歳で東部部長として私の前に登場されました。当時、次期役員研修会と次期会長研修会の制度を日本区の中に定着させるべく動き回っていました。何故研修制度が必要なのかを理論的に提案できないとなかなか承認されません。所謂理論武装をした私の登場となりました。

平原さんもクラブの在り方、例会の在り方など色々とお考えでしたので、理屈の上では相当な先輩でしたが、私も必死でしたので多分相当失礼な事もあったかもしれませんが、会議の場では丁々発止と議論したかもしれません。

後年、「EMCの問題に関心を持つ切掛けが、東部部長時代に強いインパクトを受けた結果だ」と述べておられます。その上で「EMCもただ増やせではなく、新たな切り口を考え挑戦する、夫々の地域に奉仕するワイズを支える人材発掘に頑張りたい」とのお葉書を頂いています。まさに、甲府クラブの皆様へのご遺言ではないでしょうか。ご参考になれば幸いです。



追悼 平原貞美さん

去る10月16日、甲府クラブの大先輩である、平原貞美会員が天に召されました。89歳でした。平原さんは、1953年に甲府クラブに入会、1964年クラブ会長、1994年日本区東部部長でエルマー・クロウ賞受賞。特にEMCへの情熱は熱く、松本クラブ(1988年設立)の設立準備副委員長、富士五湖クラブ(2003年設立)、長野クラブ(2010年設立)の設立準備委員長を担われ、ワイズダムの発展に多大な貢献をされました。2011-12年度に東日本区奈良傳賞を受賞されています。

YMCA関連では、1958年から山梨YMCA理事(1983年からは常議員)、2015年に山梨YMCAで初めての名誉会員に推挙されました。

平原さんとの出会い (思い出)

大澤 英二 (甲府クラブ・山梨YMCA 理事長)

平原貞美さんの甲府クラブ入会は1953(昭和28)年2月21日。甲府ワイズが発足して3年、24歳の時。今から65年前。緑町(現・若松町)の老舗の肥料店・平原伝八商店の御曹司。ワイズ入会紹介者は甲府ワイズ初代会長の歯科医市川規一博士。甲府ワイズを産み出した山梨YMCAの初代理事長。私はそのYMCAの新任職員。結婚式の証人(仲人)も平原さんと同じ市川先生ということもあり、ずっと家族のような交わりをさせていただきました。平原さんの入会式は5名同時に行われました。他の4名とは、近藤兵庫(元甲府一高校長-当時-以下同じ)、石原宗美(甲斐物産商会长-祥平会員のお父上、基平会員の祖父)、岡部秀一(県総務部長)、大塚篤郎(柳生堂書店社長)の各氏でした。

平原さんはYMCAの様々な活動にボランティアリーダーとして足繁く参加して子供たちから親しまれました。いつも愛用のカメラを携え、つぼみぐる一ふのピクニックや少年少女海浜キャンプに三浦半島にある東京Y観音崎キャンプにまで引率リーダーをされていたのを思い出します。平原さんのつながりの紹介で甲府市内の幼稚園、保育園の子どもたちに当時全国的に大人気の人形劇団“劇団ブーク”を招いて県民会館大ホールを満員にして喜ばれた思い出もあります。ハイYワークキャンプ、少年自転車教室、新聞配達少年のクリスマス、新クラブ設立、チャリティラン、バザー等々、ワイズメンとしての諸活動は枚挙にいとまがありません。

そんな元気な平原さんが、最近健康を損なわれ長いこと欠席が続いていましたが、健康な時も病む時もワイズに対する情熱は少しも衰えませんでした。現役の我々を常に覚え、励ましとアドバイスをはがきや手紙に託されました。10月13日付のお葉書が最後のものになるとは。長くなりますが記させて頂き、思い出の言葉に代えさせていただきます。

「前略 小生只今すっかり涼しさを増して来た庭の草花や樹々をボンヤリと眺め、何故そんなことをしているのか不思議な気がしています。明日も未来のことも考えられぬ程に心身の全てが衰えてきているのかと思うとどうすればよいのかわからなくなっています。いよいよボケの範疇に一步踏み入れたのかなと情けない気持ちです。唯一の救

いと言えるのは貴兄をはじめごく親しい方々とあれこれ話し合うのはとても今日を生きる励みやいろ色のものを与えられる楽しみを感じずからだと思えます。これが病持ちの年寄りの心境なのでしょうか。あきらめの境地の中で今日を只有難く感謝あるのみです。ご夫妻の健康長寿を祈ります。家内は東京オリンピックを一緒に楽しみたいと言っていますが、どうなることやら……」

10月16日御永眠。ご冥福を祈ります。

平原さんを偲んで 岡本 尚男

(京都キャピタルクラブ・第40代日本区理事)

私は1971年に京都パレスクラブのチャーターメンバーとしてワイズメンズクラブでの活動の第一歩を踏み出しました。その年の会員名簿には甲府クラブ34名の会員の中に平原さんのお名前が掲載されています。私より18年前に甲府クラブに入会されておられ、甲府クラブの重鎮として歩んでおられた方と私とのご縁は、細い一本の糸で紡がれていたように思います。

それはワイズメンズクラブに誘ってくれた友人から始まり、1983年にキャピタルクラブ設立に伴い移籍して、1994年度の日本区理事に就任したところから太いご縁となりました。即ち、平原さんが65歳で東部部長として私の前に登場されました。当時、次期役員研修会と次期会長研修会の制度を日本区の中に定着させるべく動き回っていました。何故研修制度が必要なのかを理論的に提案できないとなかなか承認されません。所謂理論武装をした私の登場となりました。

平原さんもクラブの在り方、例会の在り方など色々とお考えでしたので、理屈の上では相当な先輩でしたが、私も必死でしたので多分相当失礼な事もあったかもしれませんが、会議の場では丁々発止と議論したかもしれません。

後年、「EMCの問題に関心を持つ切掛けが、東部部長時代に強いインパクトを受けた結果だ」と述べておられます。その上で「EMCもただ増やせてではなく、新たな切り口を考え挑戦する、夫々の地域に奉仕するワイズを支える人材発掘に頑張りたい」とのお葉書を頂いています。まさに、甲府クラブの皆様へのご遺言ではないでしょうか。ご参考になれば幸いです。

平原さんを偲んで

原 俊彦(富士五湖クラブ)

平原さんの訃報をメールで知り、何事もなく過ごしている日々の中にも確実に時が刻まれている事を改めて知らされた気がします。

今を遡ること15年前、あずさ部長を拝命したその年は、平原さんを中心とした富士五湖地区での新クラブ発足の動きが正に最終章を迎えようとした年でした。

毎月のように入会候補者に集まって頂き、仮例会を開催しては「ワイズとは？その目的は？」などレクチャーしては新クラブ誕生に向け一緒に活動した日々を昨日の事のように懐かしく思い出します。

それにしても新クラブ誕生に賭ける平原さんの熱意は本当に鬼気迫るものがありました。

綿密な候補者リストを作成、それを元にトコトン説得を続けその熱き思いが一人一人の心を動かしてクラブ誕生に繋がって行ったのです。

近道など考えず、ひたすら真正面から向き合い、熱く語るその姿は、とても他の人が真似る事の出来ない平原さん独自の強烈なエネルギーでした。

晩年は正に満身創痍、しかし身体は衰えても最後までワイズの将来を思い、ワイズの発展を願い続けた平原さんに「本当にご苦勞様、ユックリお休み下さい。」と声を掛けてあげたいと思います。



【2003年1月 富士五湖クラブ設立総会懇親会にて】

平原さまを偲んで

神谷 尚孝(和歌山クラブ)

平原貞美様のご逝去は、yscomで知り驚きました。8月10日付で、いつも変わらぬ達筆なお葉書をいただき、返信しようと思いつつご逝去の約10日前にやっと電話で、近況をお伝えし私の筆無精をお詫びしました。

甲府クラブ様と和歌山クラブが1995年5月13日にDBC締結を行い現在に至っています。甲府クラブ様をDBCとして選ばせていただいた理由の一つは、和歌山クラブは甲府クラブより1年早く設立出来ていますが、甲府クラブは山梨YMCAを早くに設立し立派に運営されてきています。和歌山YMCAは1977年4月に大阪堺YMCAのランチの形で

スタートし、1995年独立、学校法人和歌山キリスト教青年会を設立。1996年4月に和歌山医療福祉専門学校を開校できました。

YMCAとY'Sがそれぞれの理想・目的を実現するためには、互いの信頼・協力を欠かすことは出来ません。その核のお一人として長年にわたり素晴らしい活動を続けて来られた平原貞美様を、お慕いし見習わせていただけ感謝しています。

天国でのご平安をお祈り申し上げます。



【2007年11月 和歌山城にて】

御礼の一言

鈴木 健司

甲府クラブが第8回東日本区大会をホストし成功を納めたのは2005年6月でした。その年の7月から、私はあずさ部の部長職を担当しました。

部長を受けてほしいと言われた時は驚きました。家内と二人で小規模な税理士事務所を営んでいだけで精一杯の身で、ワイズの理解も経験も十分でない者に、12クラブの部長職が務まるのか、これが一番心配でした。そのような悩みの心境にある時に声をかけてくださったのは平原さんでした。平原さんは仕事の上で私と関係もあり、家内のことも事務所の状況もよく分かっておられたと思います。平原さんは「色々あるかも知れないが、甲府クラブが推薦して部長となる以上、何か必要のある時はクラブ全員で支えるので大丈夫だ。」と言ってくださいました。この励ましの言葉に安心を覚えましたが、尚一抹の不安も去らない状態でした。準備も不十分のまま任期が始まりました。その中でも一番難しかったことは任期中に12クラブを2回ずつ部長訪問をしなければならないことでした。

車の運転が得意でない私は、もっぱらJRが足でした。仕事を早く切り上げ、JRの急行に乗り、訪問先の例会が終了後は急いで電車に乗り、帰宅は10時、11時という忙しさでした。私の留守を家内がカバーして、70歳という身体でよく頑張り、私を助けてくれました。文字通り無我夢中の一年でした。

平原さんは約束通り、部会にも評議会にも出席し、指導

助言し支えて下さいました。一年間を終わってクラブで慰労及び反省会を開いて下さり、その折平原さんは一年間の労いと共に中味のない部長職でしたが、クラブ訪問について「鈴木さんらしい訪問であった」と評して下さいました。まったく平原さんのお見通しのお通り、私も苦しい中での部長訪問でしたが、思い出しても色々体験し、各クラブが夫々に奉仕をし、自己研鑽に勤め展開していることがよく分かり、励まされ、ワイズの楽しさを味わうことができました。また今も大切なものとして、多くの良き友人を与えられました。その一例は原村の「こひつじ幼稚園」を会場にして、松本クラブと東京武蔵野多摩クラブが開催する合同例会です。私と家内は部長を辞した後もこの楽しい交わりが忘れられず、10年間通いました。今後も出席したいと思っています。

この尊い何物にも変えがたい多くの友人知人を私に与えてくださったのは、偶々私があずさ部長を任され、それを励まして私を押し出してくださった平原さんの一言が大きな原動力となったお陰です。平原さんは私にワイズの良さとお陰です。平原さんは私にワイズの良さと楽しさを知らせ与えてくださったのです。今この年齢になって尚、遠方にも身近にも良き交わりができる友人知人がおられるこの幸せはまったく私の宝です。平原さん、ありがとうございました。

「なに想う 夢のつづきを みるごとく
永きねむりに つきて穏やか」

限りない感謝をこめて

仙洞田 安宏

私は甲府クラブに入会後間もなく、ある病気の治療のために当時の山梨医大病院に入院しました。ある時、病棟の廊下を歩いていると、パジャマ姿の男性から「この間ワイズに入会した仙洞田さんじゃないか」と声を掛けられました。それは心臓の手術をされたばかりの平原さんでした。入会間もない私は、当時50人近くいたクラブの皆さんの名前と顔はほとんど分からなかったのですが、平原さんは、きちんと私のような者までも憶えていてくださったのです。それが、実質的な平原さんとの出会いでした。

同じ病院の釜の飯を食べたからという訳ではありませんが、その後、何かにつけて可愛がって頂きました。平原さんは、全国のワイズの方々にも知られていましたので、県外での会合の時にはよく誘って頂き、引き立てて頂きました。平原さんのリーダーシップで富士五湖と長野に新しいクラブを作った際は、平原さんの運転する車に同乗して、何十回も通いました。本当は若い私が運転するべきですが、車が好きな平原さんは、なかなか運転させてくれませんでした。その往復の車中でおしゃべりした時間は、私のかげがえのない経験として刻まれています。ワイズを通して平原さんに育てて頂いたと言っても過言ではありません。

そういう平原さんのお姿を拝見していて、私がいつも感心していたのは、ワイズメンとして65年もの間、常に情熱を注いで活動されて来た、その原動力-平原さんの好きだっ

た車に例えて言えばエンジンですが-どこから来ているのか、そしてもう一つは、こんなことを言う失礼ですが、このお歳で、と驚くような若々しい発想をされるんですが、この柔軟性-ハンドルさばきとでも言いましょか-これほどこちらから生まれるのか、ということです。本当に凄い人だなと思いました。



【2010年9月 藤村記念館にて】

思い出は沢山ありますが、一つだけ皆様にお話したいエピソードがあります。甲府駅の北口が8年ほど前に整備され、広場が出来、その一画に藤村

記念館という明治の重要文化財の建物が移築されて来ました。丁度その年に、甲府クラブが創立60周年を迎え、その記念事業として藤村記念館の周囲にバラの植栽をして甲府市に寄贈することになったのです。その中心的な役割をされたのが平原さんでした。

ところが、バラというのは普段の手入りに手間が掛かるとい事で、誰がそれをやるのか、というのが問題になりました。甲府市ではそんな予算はないと言われ、クラブでもそこまで出来ないとなった時に、平原さんが、「それならボランティアを募ったらどうか」という提案をされました。山梨日日新聞に記事を書いてもらい、地元北口の住民を中心に50名近くの方が呼びかけに応じて集まり、そして出来たのが「ラ・ロの会」というバラを育てるボランティアグループです。当初は23種類、56株だったバラが、現在では北口一帯に広がり、100種類380株となっています。「ラ・ロの会」の会員も70名近くになりました。今では、北口の名所にもなりました。

平原さんが撒いた種が文字通り花を咲かせたのです。私たちはこの咲き誇るバラの花を見るたびに、平原さんの笑顔を思い浮かべる事でしょう。平原さんには天国から見守って下さい。平原さん、本当にありがとうございました。

以上は、去る10月21日に執り行われた告別式後の初七日法要の席で挨拶させていただいたものを一部編集したものです。平原さんが亡くなる10日程前にご自宅へ訪ねたのが最後の別れでした。その時平原さんから、2年後の甲府クラブ70周年にむけて、新クラブを作るようにハッパを掛けられました。富士五湖、長野と新クラブ設立の経過を十分承知している身ですが、あの平原さんのような情熱は持ち合わせていません。しかし、これが平原さんの遺言と思い、恩返しをしたいと思っています。

第22回あずさ部 部大会

田草川 すみ江

2018年10月20日12:00～15:30まで、岡島ローヤル会館8階ゴールドルームで行われ、ホストは甲府21ワイズメンズクラブでした。

岡島の北入口にて21ワイズのメンバーに迎えられ8階へ上がると、甲府21のメンバーの元気な挨拶と共に会場に引き込まれました。広い会場は次々と訪れるメンバー約100名の出席者でいっぱいになりました。

あずさ部部長の広瀬健メンの開会点鐘により始められ、部書記の古屋秀樹メンの司会により、はじめに10月16日に天に召された平原貞美様の訃報をお知らせして、しばらく黙祷の時を持ち会が始まりました。在りし日の平原様の事を思い起こし涙しました。甲府21の方々を作って下さった平原様の略歴やブリテンの一部、甲府市広報に載っている記事などで平原様への哀悼を資料の中に別刷りして下さったのには深い感慨を覚え又涙しました。

甲府21クラブ茅野崢メンの聖書朗読と祈り、野々垣健五甲府21クラブ会長の歓迎の言葉、あずさ部部長の広瀬健メンの挨拶、来賓は甲府市長の樋口雄一氏（廣瀬あずさ部長と竹馬の友との事）がお出で下さり祝辞を頂きました。又、続いて東日本区理事宮内友弥氏、山梨YMCA理事長大澤英二氏が祝辞を述べられました。主査報告として菰渕光彦氏（会員増強）、小池亦彦氏（国際交流）、小口多津子氏（ユース）がそれぞれ現況を報告なさいました。

*特別講演

「うつ病と認知症の予防 ～生活習慣とより良い眠り（深睡眠）からの提言～」と題して甲府21クラブ・医師功刀弘氏の講演がありました。

功刀氏は55年間のうち50年を山梨で関わり、40年前の研究テーマとして「睡眠と生活療法」は世界に取り上げられたとのことでした。分厚い参考資料に沿って分かり易く説明され、健全な睡眠、健全な意識と健全な生活習慣がリンクしていると話されました。甲府ワイズの多くの皆様にも是非とも聞いて欲しかったです。功刀先生は最後にご自身のおばあ様の事を話され、講演を結ばれました。おばあ様が書かれた立派な書がパワーポイントで写し出されその達筆なことに驚きました。おばあ様が97歳の時に書かれたその書は、

「キリストはこの家のかしら、食事の時も共にいまし、我らの会話を聞きたもう」

これは大切に先生のご自宅に今なお飾ってあるとのことでした。さすがにクリスチャン医師の功刀先生、先生の話術には敬服しました。時間が押し押しでしたが、先生の話に引き込まれあつという間の講演のひと時でした。

*懇親会は13:30～15:30

甲府21米長晴信メンによる司会、駒田勝彦メンによる食前感謝祈禱によって会は始まりました。山梨英和高等学校聖歌隊の皆さんによるハンドベル演奏と合唱。ハンドベルの音色と澄んだ天使のような歌声は心に響きわたり心地良いひと時となりました。

又、歌声喫茶「あずさ」は杉田博子さんの指導で懐かしい歌を沢山唄いました。その後杉田さんの素晴らしいソプラノ独唱があり宴は大いに盛り上がりしました。そして、出席クラブの紹介、アピールがあり、「あずさの道」「YMCAの歌」を一同で歌い、廣瀬健あずさ部部長の閉会点鐘により会は閉じられました。帰る時の出席者一人一人の笑顔が印象的でした。

又、会の終了後、県外参加者の方々が平原様の弔間に行きたいということで露木総主事はバスを出し送迎をして下さいました。県外の皆様方の弔間を平原様は天国できっと喜んでいらっしゃることでしょう。又、平原様が永年ワイズに係りその功績は多大なものであったことを改めて知り、共に哀悼の念を表しました。この会の始めから終わりまで細やかな配慮が沢山あり、参加者一同楽しいひと時を過ごすことが出来て感謝でした。この部会の為に、随分早い時期から計画をし緻密に準備をされた甲府21の皆様方本当に有難うございました。甲府クラブ参加者：マウントフォード・秋山・大澤・金丸・標・仙洞田・田草川・廣瀬・露木・小倉メネット

山梨YMCAだより

総主事 露木 淳司

「産みの苦しみの時を迎えて」

2018年度の上半期が終わりました。YMCAの事業はここ数年確実に拡大しています。ただ、拡大傾向の時は、設備投資や人材確保のために、基本的に収入よりも支出が先行します。一步間違えばたちまち運営は厳しい局面に陥ります。ただ、ひとたび軌道に乗ってしまえば、経費は落ちつき安定した財務状況になるでしょう。今、高齢者の介護事業「ぶどうの木」に続き、発達障がい児支援事業「きらきら教室」が軌道に乗り出しました。これで学童保育「プライムタイム」、英語学校、野外活動に加えて5本の柱となっています。新会館建設後はさらに6本目として0, 1, 2歳児のための小規模保育所を計画しています。このすべてが安定すれば山梨YMCAのお城は安泰、ちょっとやそつとの地震や台風では揺るがない建物となるでしょう。今はまさに産みの苦しみの時だと思えます。職員たちは赤ちゃんが生まれるときと同じように、不安でいっぱいの母親やその家族の気持ちで日々過ごしています。2020年のグランドオープンまであと1年半、無事出産のときまで、こぎつくことができるか、まさに神のみぞ知るといった感じです。でもそこはYMCA、ただひたすら主のお支えと導きを信じて、強い意志と希望をもって、日々与えられた職務を迷わず粛々とこなし、前進していくのみであります。

この11月より正式に山梨YMCA75周年記念新会館建設募金が始まりました。何卒皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

これからの行事予定

11月27日（火）11月役員会 山梨YMCA

12月11日（火）12月クリスマス例会 談露館

11月 Happy Birthday

メン 内藤有一(1日)北条繁寿(2日)中澤 大(12日)
P. マウントフォード(13日) 丸茂正樹(30日)
メネット 山崎明子(3日)荒川宏枝(25日)

11月 Wedding Anniversary

石原祥平♡靖子(5日) 露木淳司♡由美(23日)
P. マウントフォード♡内藤いづみ(25日)